

長野県
高森町わかもの☆特命係が
活躍!

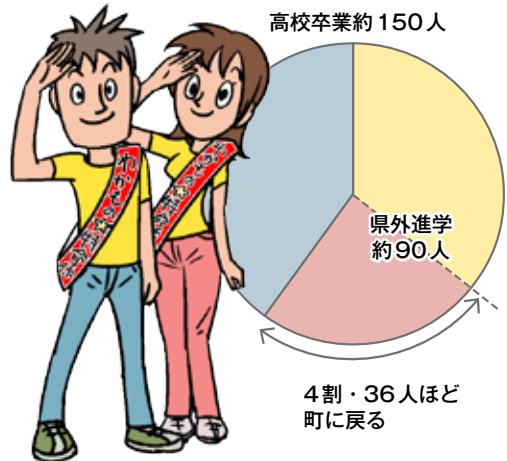
文 = 編集部 イラスト = 河野やし



長 野県下伊那地域の高森町。毎年150人ほどが高校を卒業し、約90人が県外へ進学する。そのうち町に戻ってくるのは4割ほどだ。

町出身の若者に戻ってきてほしい、町の魅力を県外在住の若者に伝えたい、そのために若者のネットワークを活用できないか——。こんなねらいから、2016年に高森町役場総務課の発案でできたのが「わかもの☆特命係」だ。

当初のメンバーは、隣接する飯田市の飯田女子短期大学に通う学生が中心。現在は、県外で暮らす大学生中心に24人が、県外各地で高森町をPRするイベントの企画や、町の収穫祭での企画・出店などの活動に取り組んでいる。



わ かももの☆特命係は、盆や正月、長期休みの帰省のたびに地元で集まってきたが、今年は新型コロナウイルスの影響でオンライン会議になった。

4月14日には、高森町の町長を交えてオンライン飲み会を開催。その中では、県をまたいだ移動自粛のために帰省できず、外出やアルバイトもしにくく、不安を抱えて暮らしている悩みが打ち明けられた。このオンライン飲み会をきっかけに町が始めたのが、帰省を控える学生へ地元の米5kgとレトルトカレーを送る「ふるさと便」だ。

「ふるさと便」の情報は、特命係のツイッターや学生同士のグループラインなど、SNSのネットワークを通じて学生たちに知らされた。希望する学生は、町のホームページで入手した応募フォームによりメールやFAXで申し込む。役場の窓口で親が申し込むこともできた。その結果、154人の申し込みがあり、4月24日には発送が始まった。

また、6月には第2弾としてブルーベリーとサクランボが送られた。サクランボのパック詰めやブルーベリーの収穫・梱包は、小学生・高校生も含む地域の人たちと役場の有志がボランティアで行なった。



特 命係企画のオンライン飲み会は7月2日にも開催。これを機に、特命係よりゆるやかなまとまりが欲しいということになり、町外で暮らす若い出身者（25歳以下）と高森町をつなぐ「高森わかものLab（ラボ）」が結成された。これには、ふるさと便を申し込んだ154人全員が登録している。ラボのメンバーは、町に戻ることが期待される「関係人口」。町のイベント情報や就職情報が提供

されるほか、特命係が企画する交流会などの案内も届く。

また夏休みの間には、ラボの登録者をはじめ南信州出身の学生が高森町内で顔を合わせる「星空焼肉会」を特命係が企画。高森町と隣の松川町の町長も参加した。期日は「焼き肉の日」の8月29日で、2週間以上前に帰省してこの日までに体調の変化がないことを参加要件にした。

